

あなたの「思い」を聴かせてください



応募条件

- 18歳以上の方で、日本語での日常会話ができる人
- 劇場の役割や文化芸術の持つ可能性に興味があり、人々の生きる活力と地域のつながりを高める取り組みの推進に意欲をお持ちの方
- 座学・体験編(全7回予定)に原則全て参加可能な方  
[日程]2023年6月18日(日)・25日(日)・7月9日(日)・16日(日)・29日(土)・8月6日(日)・20日(日)の  
全日10:30~14:30(予定)

応募方法

- エントリーフォームへの入力・郵送・窓口持参のいずれか  
(どの場合でも「まち元気サポーター応募書類」であることがわかるように表記してください)
- ①応募用紙 別添書式又は二次元バーコードからエントリーフォームをご使用ください
  - ②課題 「まち元気サポーター」への応募動機と“リンクワーカー(つなぎ役)”の必要性や“つながり”の重要性について日頃から感じたり考えたりしていることについて  
[書式] A4サイズ片面1枚分(厳守) \*文章でもイメージの図解でも構いません

活動参加の前提

- 「ala まち元気サポーター」の活動は原則「無償」です(交通費等の支給もありません)
- 本養成講座が提供する研修プログラムへの参加は「無料」となります
- 「まち元気サポーター」の任期は「最長3年間」で、年度末に更新確認を行います  
\*(例)2023年度(第1期)修了者は、最長2027年3月31日までの任期です



活動場所

主として可児市文化創造センター ala施設内

応募選考スケジュール

書類受付期間 …… 2023年5月1日(月)~ 6月10日(土)必着  
面接実施日(必須) …… 2023年5月17日(水)・21日(日)・24日(水)・28日(日)・31日(水)・  
6月4日(日)・7日(水)・11日(日)・14日(水)の10:00~16:00  
選考結果 …… 2023年6月15日(木)までにお知らせいただいたメールアドレス宛にご連絡します

提出先

可児市文化創造センター ala

〒509-0203 岐阜県可児市下恵土3433-139  
alaまち元気サポーター募集担当(担当:栗田・松浦)

☎0574-60-3311 ✉alamachigenki@gmail.com

\*ご提出いただいた書類は返却いたしません \*お預かりした個人情報は本選考以外には使用しません

エントリー  
フォームは  
こちら



<https://sgfm.jp/f/machigenkisupporter2023>



ライフステージ  
“日常生活”にもう一つ  
あなたの“地域の劇場”で  
“アート体験”を活かしたライフワークを。

まち元気サポーター



募集人数  
15~20名  
程度

アラのコミュニティ・プログラムや文化芸術と地域の人々の間を結ぶ“まちのリンクワーカー(つなぎ役・お世話焼きさん)”のことです。イギリスでは医療分野において「薬を処方する代わりに“人と人とのつながり”を処方する社会的処方(social prescribing)」が注目されており、リンクワーカー(Link worker)は、その担い手として地域のつながり資源を良く知り、その人に適したプログラムを紹介する大切な役割を果たしています。

エントリーフォームは  
こちら



養成講座

2023  
第1期

募集期間 2023.5.1 Mon. - 6.10 Sat.

# “alaまち元気サポーター”は、 わがまちの“リンクワーカー”です。

STEP.1

## エントリーする!

自分のアイデアやモチベーションを、コトバや図解で説明してみよう。  
同じ思いを持つ人や新しい自分との出会いが待っているかも!



STEP.2

## まなぶ! 《全7回》

さまざまな現場や手法でのくつなぎづくりの経験や社会的処方箋につながるようなイキイキとした実践を試みてきた“センバイ”たちに、劇場の特色を活かしたアイデアやコミュニティづくりのコツについてお話を伺います。

座学・体験編  
6~8月

STEP.3

## つくる!

企画・実践編  
9~2月

グループに分かれて企画を考えたり、alaのプログラムに参加して“現場”を体験します。  
こうしたプロセスから得た気づきをもとにミーティングを重ね、同時に活動の対象となる人たちや地域との絆を深めながら、自分たちらしい“リンクワーカー像”の輪郭を描いていきます。ここからは主体的に話し合い、それぞれに準備を進めていきます。



STEP.4

## 活動成果発表!

これまで積み重ねてきた活動の成果や手に入れた地域資源を活かしてグループごとにオリジナル企画を実施し、対象となる人たちにプログラムを体験してもらうとともに、関わった全てのステークホルダーと“振り返り”を行います。

2~3月



STEP.5

## まち元気サポーター任命へ!

2024年4月から3年間、“alamachi元気サポーター”として、地域活動やアールのコミュニティ・プログラム、自分たちの考えたオリジナル企画などを実施し、文化芸術を活かした“社会的処方箋づくり”にその創造力・行動力を発揮していきます。

万博イヤーとなる2025年度には、国内で活躍するファシリテーターや、さまざまなコミュニティ・プログラムが一堂に会する《まち元気EXPO(ワークショップ見本市・仮)》を開催予定。その運営スタッフとしてもご協力いただく計画です。



可児市文化創造センターalaからのメッセージ

## 「社会的処方箋活動」の実践について

コロナ禍が顕在化した2020年以降、「社会的孤立」はますます大きな問題となって、日本の地域社会の健全化に悪影響を及ぼしてきています。また「社会的孤立」は日本だけの問題ではなく、先進諸国の多くにおいて解決すべき課題として取り上げられ、その対策先進地であるイギリスでは、2018年1月に当時のメイ首相が「孤独担当大臣」のポストを新設しています。こうした状況の中、その解決方法の一つとして「社会的処方(social prescribing)」が注目されており、孤立・孤独が原因のストレス症状などへの予防・改善策として、薬の

服用に頼らず、対話やそれに代わるアートを介したやりとりを通じて自己効力感を高めていく「つながりの処方箋」としての文化芸術の新しい役割が期待されています。アールでは、2020年度より「社会的処方箋活動」の実装に向けたいくつかのパイロット事業を文化庁などの委託を受けて実施してきましたが、今後はいよいよ市民の皆さんとの共創により、「アール」という劇場をハブとした「まち元気プラットフォーム(持続可能な地域の支え合いのネットワーク)」の構築に歩みを進めてまいります。

### ゲスト



### コーディネーター

